

第 279 回 藤沢市秩父宮記念体育館の秩父宮像と藤沢市民会館の片山哲像

筆者：林 久治（記載：2024 年 6 月 18 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

ネット記事を色々と探索すると、[1\) のサイト/](#) に収録されていない銅像がまだまだ沢山ある。私はそれらの内で、6 月 1 日に板橋区の坂本清像を探索した。[1\) のサイト/](#) に収録されている杉並区のマハトマ・ガンジー像とチャンドラ・ボース像も探索し、これら 3 像の探索記を、[276 回の記事/f](#) に記載した。6 月 8 日には、[1\) のサイト/](#) に収録されていない小平市の親鸞幼像と齋藤素巖像を探索した。[1\) のサイト/](#) に収録されている小平市の平櫛田中像も探索し、これら 3 像の探索記を、[277 回の記事/f](#) に記載した。

その後、私は [1\) のサイト/](#) に未収録の銅像をネット検索していたが、「[本年 4 月 11 日に、加山雄三の銅像除幕式が茅ヶ崎市役所前広場であった](#)」との記事 ([3\) のサイト/](#) など) を見つけた。彼ほど超有名人の銅像除幕式を、探偵団の団長さんや団員の方々は気付いていないようで、本サイトに本像は収録されていなかった。そこで、私は急遽予定を変更して、6 月 15 日に本像を探索し、その探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

私は加山像の探索後、ついでに藤沢市にも行き、[1\) のサイト/](#) に収録されている藤沢市民会館の片山哲像も探索した。片山像の周辺地図を次ページの図 1 上に示す。本図から分かるように、片山像の隣に「秩父宮記念体育館」がある。私は「ひょっとしたら、ここに秩父宮の銅像があるかも知れない」と思った。実際、ここに行ってみると、私の予感通りに、秩父宮像を発見することが出来た。勿論、本像は [1\) のサイト/](#) に収録されておらず、**私のスクープ** となった。本稿は、秩父宮像と片山像との探索記である。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）藤沢市秩父宮記念体育館の秩父宮像

私は、6 月 15 日に茅ヶ崎市の加山雄三像を探索した後、茅ヶ崎駅から藤沢駅に行った。そこで江ノ電に乗り換えて、次の石上駅で下車した。藤沢駅と石上駅の周辺地図を次ページの図 1 上に示す。この境界の紹介は、[4\) のサイト/7](#) が良い。



図1.
上：藤沢駅と石上駅の周辺地図、
下：秩父宮記念体育館



石上駅から秩父宮記念体育館（藤沢市鶴沼東8-2）までは、徒歩で約5分であった。当日は、初夏の太陽が眩しかったが、流石に湘南だけあって、吹く風は爽やかで、歩いていても蒸し暑さがなかった。

私は「なぜ、藤沢市に秩父宮を記念する体育館があるのか？」との疑問を持った。それに対する回答は本館のHP（[5](#)）の[サイト/a](#)）に、次のように書かれている。

藤沢市は秩父宮雍仁親王殿下がご静養のため1952年に移住され、終焉の地としてゆかりが深い場所です。雍仁親王殿下はご幼少の頃からスポーツを好まれ、テニス・ヨット・スキ

一・登山等に興味を持たれていました。1954年に藤沢市で体育館を建設することになり、そこで故雍仁親王殿下が生涯を通じてスポーツに深い関心を持たれていたことなどから「藤沢市秩父宮記念体育館」の名称を賜り、1955年に秩父宮記念体育館として開館しました。また、同年に開催された第10回神奈川国体の会場になりました。本館は、1997年に改装され、翌年に開催された第53回「かながわ・ゆめ国体」バレーボール競技の会場になりました。また、市民大会をはじめ多くの大会が行われています。市民の健康増進や体力づくりの場、多様なスポーツレクリエーション活動の拠点として、多くの方々が快適にご利用いただけるような施設を誇っています。

本館は一般の入場は自由であったので、私は1階に入構してみた。玄関の内側はロビーがあり、その一角に「秩父宮雍仁親王殿下御下賜品」と題する陳列コーナーがあった。その写真を、図2に示す。



図2. 「秩父宮雍仁親王殿下御下賜品」の展示コーナー

展示コーナーにはガラス戸があったので、内部の鮮明な写真は撮影できなかった。コーナー内に「御下賜品伝達書」が展示されていて、その写真を次ページの図3に示す。それには、次のように書かれていた。

御下賜品伝達書

當宮妃殿下より某市の願出によりこのたび竣工の市営秩父宮記念体育館に左記の通り賜りましたから伝達いたします。

昭和三十年九月二十日 秩父宮掛事務官溝口三郎

藤沢市長金子小一郎殿

記

一. 故雍仁親王御胸像

一. 同 御肖像写真

以上

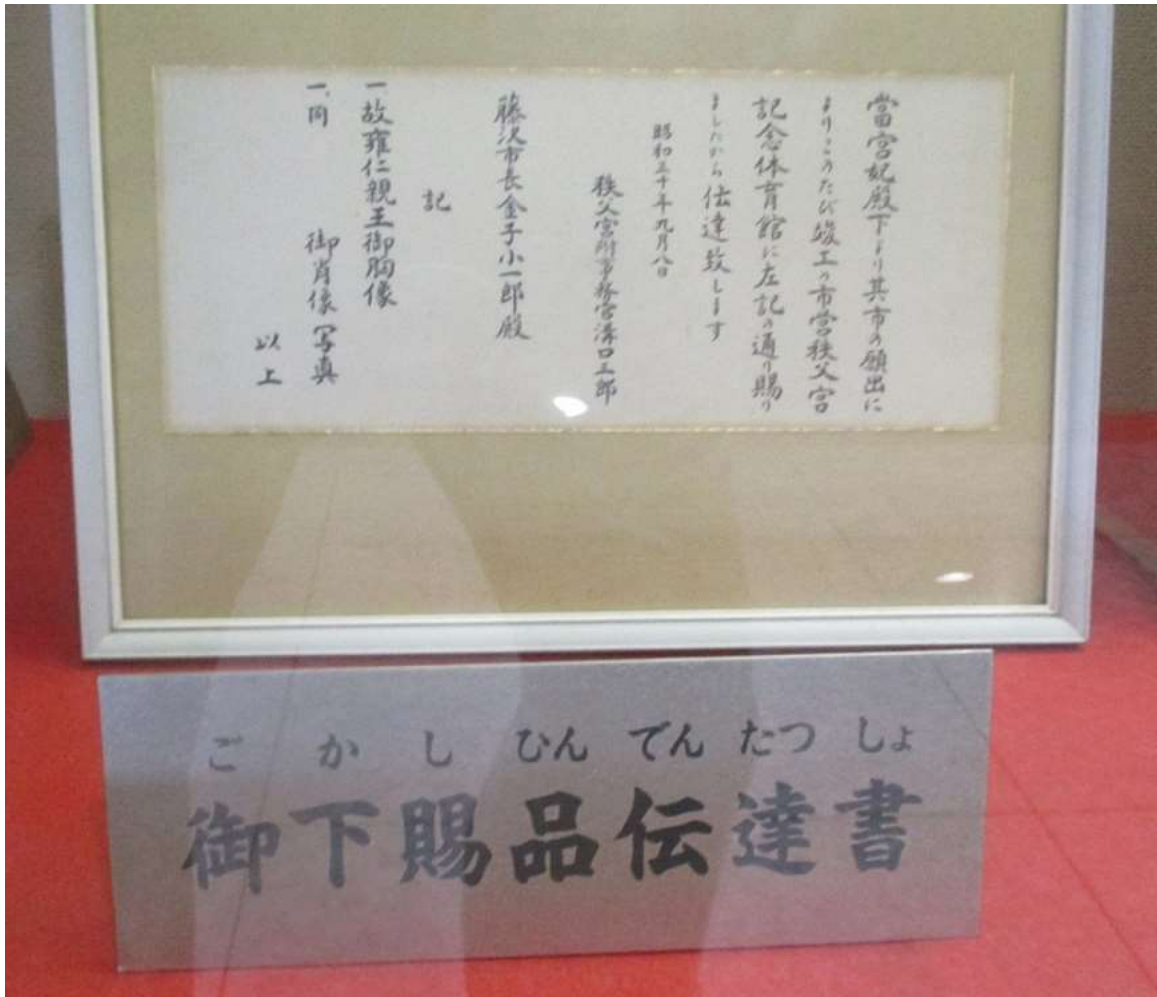


図3. 御下賜品伝達書

展示コーナーのガラス戸の内部には、上記の「御下賜品伝達書」に書かれていた「故雍仁親王御胸像」と「故雍仁親王御肖像写真」が展示されていた。それらの写真を次ページの図4と図5に示す。両品ともにガラス戸内にあつたので、鮮明な写真は撮影出来なかった。また、これらの制作者や制作時期は不明である。

上記以外に、「御愛用竹刀」と「御愛用剣道防具」も展示されていた。それらの写真を、6ページの図6に示す。以上の資料などにより、秩父宮像の概要は次の通りである。

秩父宮胸像

設置場所：神奈川県藤沢市鵜沼東8-2 秩父宮記念体育館1階ロビー

制作者：不明、制作時期：不明

下賜時期：1955年9月20日

設置経緯：本像は、藤沢市の願出により、秩父宮妃殿下から肖像写真と共に下賜された。藤沢市は秩父宮雍仁親王（1902年6月25日 - 1953年1月4日）がご静養のため1952年に移住され、終焉の地としてゆかりが深い場所です。雍仁親王はご幼少の頃からスポーツを好まれ、テニス・ヨット・スキー・登山等に興味を持たれていました。1954年に藤沢市で体育館を建設することになり、そこで故雍仁親王が生涯を通じてスポーツに深い関心を

持たれていたことなどから「藤沢市秩父宮記念体育館」の名称を賜り、1955年に秩父宮記念体育館として開館しました。



図4.
故雍仁親王御胸像



図5.
故雍仁親王御肖像写真

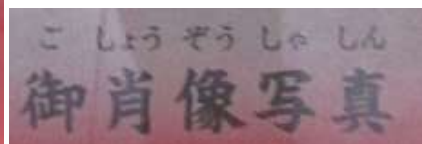




図6．左：故雍仁親王御愛用竹刀、右：故雍仁親王御愛用剣道防具。

(3) 藤沢市民会館の片山哲像

私は秩父宮像を探索した後秩父宮記念体育館を出ると、隣の敷地に藤沢市民会館（藤沢市鶴沼東8-1）があった。その写真を、次ページの図7上に示す（本図は、[6）のサイト/5](#)より借用）。本館の前庭に1基の胸像があった。その写真を、図7下に示す。これが、片山哲像であろう。

[6）のサイト/5](#)によれば、本館の概要は次の通りである。

藤沢市における文化芸術活動の拠点として、1968年に開館した文化施設。大・小2つのホールを備え、コンサートや発表会、コンクール、式典などに利用されている。その他、展示集会ホール、集会室、会議室、レストランがあり、市民まつりや産業フェスタなど地域行事の会場としても親しまれている。老朽化に伴う再整備が検討されている。また、旧近藤邸（1925年建設）が敷地内に移築保存され、登録有形文化財として公開されている。

（本文は、9ページに続く。）



図7. 上：藤沢市民会館（[6](#)）のサイト/5）、下：本館の前庭に設置された片山哲像。



図8. 上左：片山哲像、上右：台座の制作者サイン、下：台座背面の碑文。

図8上左に片山哲像を、図8上右に台座の制作者サインを、図8下に台座背面の碑文を示す。台座正面の題字には、「**名誉市民 片山哲先生**」と彫られていた。本像の碑文は、本像の概要欄に記載する。なお、碑文を書いた林大作の略歴は、ウィキペディアに次のように書かれている。

林大作（1905年1月2日 - 1985年11月26日）は、愛知県八名郡賀茂村（現・豊橋市）出身。1928年東京帝国大学法学部政治学科を卒業し、三井物産に入社。戦後、弁護士となり片山哲の法律事務所で勤務。1947年4月の第23回衆議院議員総選挙で愛知県第5区から日本社会党公認で出馬して当選。その後、第24回、第25回総選挙に立候補したがいずれも落選した。その他、自転車振興会連合会長、日本自転車振興会連合会顧問、後楽園スタジアム（現株式会社東京ドーム）取締役、甲子園土地企業取締役、宝サービス社長などを務めた。

本像制作者の菅沼五郎の略歴はウィキペディアに次のように書かれている。

菅沼 五郎（1905年 - 1999年4月19日）は、愛知県豊橋市の銀行家の家庭に生まれ、上京して東京美術学校で朝倉文夫に彫刻を学んだ。池袋モンパルナスの一画にあった貸シアトリエ「桜ヶ丘パルテノン」を仕事場にする。1952年、池袋モンパルナスで交流の深かった童画家黒崎義介が藤沢市鶴沼海岸に転居した後を追うように自らも鶴沼に転居した。土地は父親が金鵒勲章受章記念に購入してあった別荘地だという。しかし、晩年まで池袋のアトリエに通い、模索と実験を繰り返した。鶴沼では1959年設立された鶴沼公民館で、黒崎義介と共に美術指導の中心的役割を担った。また、「湘南美術研究会」を組織し、プロの美術家を育成した。なお、幸子夫人は大杉栄と伊藤野枝の次女で、生後半年で大杉の妹・牧野田松枝とその夫で軍の通訳書記官をしていた牧野田彦松夫妻の養女となった。

片山哲の略歴は、ウィキペディアなどに記載されている。彼と藤沢市との関係は、[7\) のサイト/1](#)に次のように書かれている。

1924年から藤沢市片瀬に居を構え、以後半世紀余を藤沢の地に暮らしました。63年に75歳で政界を引退。69年に藤沢市名誉市民第1号に選ばれ、78年に90歳で亡くなりました。

以上の資料などにより、片山像の概要は次の通りである。

片山哲先生胸像

設置場所：神奈川県藤沢市鶴沼東8-1 藤沢市民会館前庭

制作者：菅沼五郎（1905-1999）、藤沢市在住

制作時期：1972年5月

建設者：片山哲先生を顕彰する会

設置経緯：片山哲（1887年7月28日 - 1978年5月30日）は、和歌山県西牟婁郡田辺に生まれる。社会民衆党書記長（初代）、衆議院議員（10期）、社会大衆党執行委員、日本社会党書記長（初代）、日本社会党委員長（初代）、内閣総理大臣（第46代）、民主社会党常任顧問を歴任した。片山は第三高等学校を経て、東京帝国大学法学部独法科卒業。卒業後、YMCA 寄宿舍の一室を借りて「簡易法律相談所」を開設、弁護士として活動した。社会民衆党の結成に参加し、書記長に就任した。1930年の第17回総選挙に旧神奈川2区から出馬して初当選。以後非連続ながら当選10回を数えた。1945年に日本社会党が結成されると書記長に就任、翌年には日本社会党委員長（初代）に選出された。1947年の第23回総選挙で日本社会党が143議席を獲得し、衆議院で比較第一党となる。これを受けて衆議院の首班指名選挙では、片山が内閣総理大臣となる。在任期間は、1947年5月24日から1948年3月10日まで。1960年1月24日、社会党を離党した西尾末広らによって民主社会党

(民社党)の結党大会が開かれ、片山を含む衆議院議員 38 人、参議院議員 16 人が結党に参加した。1969 年 10 月 1 日、神奈川県藤沢市から第一号の名誉市民として顕彰される。台座背面に次の彫文がある。

片山哲氏、明治二十年紀南に生る。こよなく湘南を愛し、居を構えてより五十有余年、清節道を守って湘南の人となる。市民諸君より推されて衆議院議員に当選する事十一回、昭和二十二年五月には内閣総理大臣に就任し、戦後の難局処理に当たる。その後外遊数回、世界の人物と風光に接し、益々わが湘南の風物、世界に秀でたるを信ず。この真白き富士の嶺、緑の江の島の中心たる藤沢市の第一号名誉市民に選ばれたる事を、生涯の光栄として喜び居れり。一九七二年五月 林 大作 識

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：
https://shonanjin.com/news/chigasakicity_eventrepo_yuzokayama_monumentceremony020240415/
- 4) のサイト：<https://4travel.jp/travelogue/10887507>
- 5) のサイト：<https://f-mirai.jp/sports/gymnasium/chichibunomiya>
- 6) のサイト：<https://www.livewalker.com/web/detail/9885>
- 7) のサイト：
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kouhou/khf111225/hiroba03.html>